

繊維系壁紙 施工上のご注意

本製品は、「施工上のご注意」に準じて施工をお願い致します。

注) :ヨコ糸を強調した色柄の為、柄合せは出来ません。ジョイント部分が目立つ場合があります。

注) :ヨコ糸の麻糸は天然素材の特性上、毛羽・太さのバラツキ・黒みを帯びた繊維のかたまりが有る場合があります。

- 織物壁紙の製造上、織り柄の揺らぎや目曲がりによってジョイント部分が目立つ場合があります。
- 織物の凹凸部分の重なり方によって、ジョイント部が目立つ場合があります。
- 光の変化や見る角度により、ジョイント部で色が違って見える場合があります。

あらかじめご了承ください。

施工環境

・冬場などの気温が低い場所では、糊の接着強度が著しく低下して、ジョイントの目開きや、折りジワが残る場合があります。施工場所の室内温度をストーブ等で上げてから行なってください。

下地処理

- ・下地処理は丁寧に行ってください。
- ・下地基材面にはシーラーを塗布してください。
- ・パテは下地基材の色に合わせてください。

接着剤の濃度と塗布量

- ・本製品の施工には、工場調合品「ウォールボンド100」(原液タイプ)を、おすすめします。
- ・希釈タイプの施工糊は、糊メーカーの指示に従ってください。
- ★塗布量の目安は140～160g/㎡を目安とし、均一に塗布してください。
- ・温度・湿度・壁紙の性質に合わせて塗布量を調整してください。塗布量や希釈率が不適切であった場合、アイハギや接着不良、目隙の原因になります。

* 光沢差や変色の可能性がある為、壁紙の表面に糊が付かないように注意してください。

貼り付け・ジョイント

- ・エア抜きや圧着工程でのキズを防止する為に、柔らか目のソフトブラシをご使用ください。
- ・ジョイント部のカットの際、下地を切らないようにご注意ください。
- ・ジョイント部の重ね切りの際、下地材の保護と目スキ防止用に下敷きテープ(旭興(株)CPP下敷きテープ)のご使用をお勧めします。
- ・カッターは薄刃(0.22～0.25mm厚)を使用し、切れ味が落ちないように刃をこまめに折ってください。
- ・ジョイント部はのりきれ(乾燥)がおこらないようにご注意ください。
- ・ジョイント部のおさめは、突きつける感じで撫でるようにおさめあまり強くローラーで押さえないでください。その際、必ずソフトローラーをご使用ください。

オープンタイム

- ★のり付け後、クロスが乾かないように、養生ケースまたは養生袋に必ず入れてください。
- ・貼り付け作業は、クロスにのりが馴染み、しなやかになってから行ってください。
- ・糊付け後は折りジワが付かないように大きくたたみ、重ね置きをしないでください。壁紙をきつく折りたたんだり、湾曲部を強く押えないようにしてください。折りジワになることがあります。



○:良い例



×:悪い例

- ・クロスは材質や環境条件によって、オープンタイムは異なりますが、原則としては5～15分(気温:20℃ 湿度:60%)が目安です。
- ・オープンタイムが短い場合は、後伸びが発生してシワの原因になります。又、オープンタイムが長すぎる場合は、アイハギの原因になります。

のりの拭き取り

- ★壁紙の表面にのりを付着させないでください。(のりや汚れが付着した場合は、擦らないで、水に浸して固く絞ったやわらかい布で、軽く叩くように拭取ってください。)
- ・枠、巾木などに付着したのりを拭くときは、地べらなどを使い必ずクロスガードしてください。
- ・天井面と壁面クロスは突き付け施工には、壁面クロスは水平方向(巾方向)にガードテープを必ず使用し、天井クロスにのりを付着させないでください。

その他

- ・3枚くらい貼り付けた後、必ず左右の色差など、トラブルの有無を確認した上で作業を進行してください。
- ・クロスを貼り付けた後は、急激な乾燥を避けて、窓を閉めて自然乾燥するようにしてください。
- ・3巾以上の施工後は、クレームをお受け出来ない場合があります。